交換留学報告書

＊ この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	木田 莞奈	学年（渡航時）	3 年
派遣先大学	キール大学		
国・地域	イギリス		
派遣期間	2024 年 9 月 ～ 2025 年 6 月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
The Changing World: A History of International Relations	国際関係学における国際史の基礎を学ぶ。第二次世界大戦後から現代に至る主要な国際的出来事を扱い、冷戦、核戦略、脱植民地化とアフリカの国家建設、ヨーロッパ統合、リベラル国際秩序の形成、冷戦終結、西側諸国の軍事介入、現代国際政治の課題について考察する。
Social & Political Theory	自由、個人性、革命、進歩といった社会・政治理論の中心的概念を取り上げ、それらが現代社会において持つ倫理的意義を考察する。アダム・スミスによる自由、ジョン・スチュアート・ミルの個人性や社会進歩に関する啓蒙思想、シモーヌ・ヴェイユ、ハンナ・アーレント、マハトマ・ガンディーによるリベラル社会への批判を通じて、個人主義、市場の自由、民主主義の限界と可能性を検討する。
Investigating Social Issues	現代社会の諸問題を社会学的な視点から考察する。社会学の基本文献に加え、映画、ポッドキャスト、ドキュメンタリーなど多様な資料を用いて、社会問題の理解を深める。社会学が社会の諸側面をどのように捉えるかを学ぶとともに、社会学的な問いの立て方や研究方法についても批判的に考察する。
English for Academic Purpose 2	ワークショップや課題、オンライン教材を通じて、大学での学習に必要な基本的なリーディング、ライティング、口頭表現のスキルを身につける。情報の抽出、要約・言い換え、出典の引用と参考文献の作成、エッセイの構成と論証の展開、プロセスライティングなどを学ぶほか、意見の述べ方や証拠の提示、発言の順番などディスカッションに必要なスキルも学ぶ。
2 学期目	
履修科目	授業内容
Introduction to International Relations	国家の社会がどのように形成され、ナショナリズムやイデオロギー、技術、グローバルな資本主義経済といった要因によってどのように影響を受けてきたかを学ぶ。また、国際関係論における主要な伝統的理論についての基礎的理解を目指す。
Securing Global Order	「安全保障とは何か」「誰の安全を指すのか」といった問いを起点に、安全保障研究の基礎概念と理論的枠組みを学ぶ。国家安全保障、人間の安全保障、環境安全保障など多様な視点を取り上げ、特定の問題がどのように安全保障の課題として位置づけられるかを批判的に考察する。核戦争、環境危機、感染症、ジェンダー、福祉、テロ、差別といった現代的課題を通じて、安全保障とグローバル政治の関係を理解する。
War & Peace	国際政治における戦争と平和を理論的・実証的に考察する。戦争と平和の原因や影響、戦後の平和構築の条件、そして戦争と平和の研究における脱植民地化の可能性について学ぶ。歴史的分析、伝統的理論、批判的・フェミニズム的視点、国際政治経済や環境の観点など多様なアプローチを通じて、現実の国際政治と学術的議論の双方を批判的に考察する。
English for Academic Purpose 2	ワークショップや課題、オンライン教材を通じて、大学での学習に必要な基本的なリーディング、ライティング、口頭表現のスキルを身につける。情報の抽出、要約・言い換え、出典の引用と参考文献の作成、エッセイの構成と論証の展開、プロセスライティングなどを学ぶほか、意見の述べ方や証拠の提示、発言の順番などディスカッションに必要なスキルも学ぶ。

留学レポート（1,500 字以上）
以下内容を記載する。 1 留学の目的・動機　2.学業　3.学外活動　4. 現地での生活（寮生活・交友）　5. 留学中の困難（Society 活動・就職活動）　6. 留学の成果・学び　7. 留学を振り返っての総括　8. 留学準備・留学中のアドバイス 【1. 留学の目的・動機】 専攻している国際関係論、特に平和学に関する知識をさらに深めたいと考えたため、留学を志望した。 【2. 学業】 国際政治および国際関係論に関する講義を履修した。内容としては、日本で学んできた基礎的な知識の振り返りも多くあったが、サイバーセキュリティや国際機構といった新たな視点からの深掘りがあり、非常に有意義な学びの時間となった。 特に、安全保障に特化した講義では、「何をもって安全保障とするのか」「安全保障を提供するアクターとは誰か」「守られる対象は誰／何なのか」といった問いについて深く考察する機会を得た。また、政治史の講義では、ヨーロッパ、特にイギリスの観点からの分析が中心であり、これまで長崎を中心に学んできた知識をさらに多角的に捉えることができた。 さらに、「戦争と平和」に関する講義では、戦争記憶や平和とは何かというテーマに加えて、フェミニズムやジェンダーの観点からのアプローチも取り上げられ、視座を広げることができた。日本で得た知識を土台に、より具体的な事例や異なる立場からの議論に触れることで、国際関係論と平和学に対する理解を一層深めることができた。 また、社会学の講義では、イギリス国内の地域差を背景とした貧困問題やホームレス問題、インターネット社会における格差といった社会課題について学習した。 卒業研究に関しても、講義外で現地の教授に連絡を取り助言を求めたり、関連文献を収集したりするなど、積極的に取り組むことができた。 【3. 学外活動】 Japanese Cultural Society（日本の部活動・サークルに相当）の運営メンバーとして活動し、副代表を務めた。他の日本人留学生や日本文化に関心のある学生とともに、2 週間に 1 度、日本の文化や慣習を紹介し、実際に体験できるクラフトイベントを実施した。 活動を通して、日本に関する正確な情報を調べる機会が増え、これまであまり意識せずに行ってきた自身の文化的慣習についても振り返ることができた。加えて、他国の学生に日本の文化や慣習をわかりやすく伝えるために、イギリスをはじめとした他国の類似文化についても調べるようになり、現地文化への理解も深まった。 また、SU（サークル連合や生協組織のような団体）とのやり取りを通じて、多国籍の人々と協力する上で必要な調整力やコミュニケーション力を実践的に学ぶことができた。 また、元駐日英国大使の講演、在英国日本国大使の講演にも参加し、外交官の視点からの日英関係について学んだ。外交官の役割を深堀すると共に、国際関係についても深めることができた。 【4. 現地での生活】 （寮生活） 4 人でキッチン・シャワー・トイレを共有する個人部屋があるフラットに入寮した。ルームメイトは、前期はカナダ人・ドイツ人・日本人と、後期はカナダ人・オーストラリア人・日本人であった。自ら提案して、毎週火曜日に The Great British Bake Off の鑑賞会をしたり、時折各国の料理を作る会をしたりして、積極的に交流を深めた。互いの文化的背景を共有し、有意義で刺激的な時間を過ごすことができた。 （交友） 友だちに誘われて、リヴァプール・バーミンガム・マンチェスター・ロンドン・エディンバラに遠出した。それぞれの土地の有名スポットを巡ったり、クリスマスマーケットを楽しんだりした。 また、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、年越しパーティー、BBQパーティーなどにも誘われ、イギリスならではの過ごし方を教わり、楽しむことができた。 また、PUBや時折開催される大学内でのディスコにも友人とともに訪れた。日常ではなかなか経験できないような文化に触れる機会となり、自分だけでは経験しないであろうことを体験することができた。それ以外にも、カフェでお茶をしたり、アフタヌーンティーショップで本場のアフタヌーンティーを味わったりと充実した時間を過ごした。 【5. 留学中の困難】 （Society 活動） Society には、アジア人女性をターゲットとする学生が複数存在していた。そのため、他のアジア人学生が不快な思いをしないよう常に注意を払い、必要に応じて助けることもあった。アジア人女性のみを狙っているのか否かの

判断が難しく、明確な対応がとれず苦慮する場面も多かった。また、後期には自身がトラブルに巻き込まれかねない状況に直面し、身の危険を感じたこともあったが、他の日本人学生と情報共有し、友人に相談することで、深刻な事態には至らずに運営を続けることができた。

（就職活動）
時差だけでなく、現地の生活に慣れること、講義の予習・復習（予習リーディング量が多い）、現地での人間関係構築、SPI や面接対策といった多くのタスクを並行して行う必要があり、心身ともに大きな負担となった。特に秋から冬にかけては天候の悪さによる気分の落ち込みも激しく、精神的に弱っていた時期もあった。
また、説明会やインターンシップにも時差の関係で参加しづらく、日本にいる学生たちの就職活動の進捗状況もわからない中で、不安に駆られる日々が続いた。最終的には、自身の体調やキャパシティを考慮し、無理をせず、自分のペースで進めた。

【6. 留学の成果・学び】
多様な文化的・社会的背景を持つ人々との協働や対話を通じて、自身の視野を国際的に広げることができた。異文化理解や多様性に関する実践的な経験を重ねたことで、自らの価値観や伝え方を見直す機会となり、国際社会における対話の重要性を実感した。また、困難な状況に直面した際には、冷静に状況を判断し、周囲と協力して対応する力が身についた。加えて、限られた時間の中で複数の課題を両立させる自己管理能力も向上し、今後の学業や社会人生活においても活かせる貴重な学びとなった。

【7. 留学を振り返っての総括】
今回のイギリスでの 1 年間の留学は、私にとって学問的にも人間的にも大きな成長となった。国際関係論や平和学といった専攻分野における理解を深めるだけでなく、異なる価値観や社会的背景を持つ人々との対話を通して、自分自身の立ち位置や考え方を見つめ直す機会となった。
講義やディスカッションを通じて、より専門的かつ多角的な視点から国際社会を捉える力を養うことができた一方で、自身の英語力の課題や表現力の不足にも直面した。また、就職活動や人間関係においては、語学や文化の違い以上に、自分の限界や精神的な負荷と向き合う必要があり、決して楽な 1 年ではなかった。
その中で、「多文化共生」や「移民受け入れ」といった理念が、現実の社会では多くの摩擦や課題を伴うことを肌で感じた経験は、今後日本が直面するであろう社会的変化を考える上でも、非常に大きな学びとなった。また、異文化を「知ること」と「受け入れること」の間には明確な隔たりがあるという気づきは、表面的な理解にとどまらない深い異文化理解への姿勢を自らに問い直すきっかけともなった。
この 1 年間を通して、私は自分が海外で長期的に生活することには向いていないという自己理解も深まった。だからこそ、今後日本社会の中で、どのように他者と向き合い、異なる視点を取り入れながら課題解決に貢献していけるのか、自分なりの関わり方を模索していきたい。

【8. 留学準備・留学中のアドバイス】
（準備）※本項目は 2024 年時点での情報に基づくものであることに留意されたい。
一年間の留学を予定している場合は、ビザの申請が必要である。その際に銀行の取引明細書の提出が求められる。残高証明書を提出する者もいるが、それで承認されるか否かは審査官の判断次第であり、運による部分も大きいため、より確実を期すのであれば取引明細書の提出を勧める。ただし、多くの銀行では英文の取引明細書を発行しておらず、自ら翻訳会社に依頼する必要がある。おすすめの翻訳会社は「くまざさ　英語のコンビニエント・サービス」
なお、入学許可書や必要書類の発行に時間を要することが多く、不安に感じることもあるかもしれない。しかし、7 月までには許可書が送付されるため、過度に焦る必要はない。

寮の申請に関しては、リンジーは牛舎が近いため、臭いに敏感な人は避けた方がいいだろう。

（あると良いもの）
包丁・スキンケア用品
包丁は現地で購入する場合、パスポートの提示が求められる。また、値段の割に切れ味が悪いものも多いため、日本から持参することを勧める。
スキンケア用品は日本に比べて価格が高く、特にフェイスマスクは 1 枚単位での販売が主流である。日頃から使用している製品がある場合は、あらかじめ日本から持参しておくとよい。

（留学中）
【便利なアプリ】
- First Bus：バスチケットの購入が可能。キール大学のメールアドレスで登録することで、学生料金が適用される。

- TrainPal／Trainline：いずれも電車チケットの購入に便利なアプリである。
- Railcard：£35 で 1 年間有効なカードを購入でき、鉄道料金が割引となる。
- PayPal：日本でいう PayPay のような電子送金サービスであり、友人同士の送金にも便利である。

Global Opportunity や Language Centre が主催するイベントに参加することで、他の留学生との交流を持つ機会が得られる。これらのイベントでは、個人で手配するよりも安価な料金で観光地へのツアーが企画されていることもあり、積極的に参加することで交友関係を広げることが可能である。
また、大学の Club や Society に参加することも有効である。学生組合（SU）が主催するイベントも頻繁に開催されており、そうした場を通じて交流を深めることができる。
学内にはパブもあり、水曜日にはディスコが開催されることもあるため、学業の合間に息抜きとして楽しむのも一興である。

【気を付けてほしいこと】
大学近隣には Newcastle の町があるが、この地域は薬物中毒者が多いとされている。そのため、特に夜間の単独行動は避けた方が良い。どうしても外出する必要がある場合は、複数人での行動を心掛けるべきである。
また、現地では大麻の使用者が学生を含めて一定数存在するが、警察による取締りは限定的である。そのため、学内の一部では夜間に喫煙している者も見られる。遅い時間の外出は控える方が望ましい。
特に女性学生に対しては、アジア人女性をターゲットとする学生も存在するため、十分な注意が必要である。安全第一を心掛け、必要に応じて周囲と連携を取りながら行動することが重要である。

留学中の写真（5 枚程度） ※写真のキャプションも入れること

Japanese Cultural Society のイベント

町の Pub にて昼飲み

クリスマスマーケット

大学内で飼われている牛達

ハロウィンパーティー